

## 『家族と家庭生活』

# 技術・家庭科学習指導案（家庭分野）

福山市立城北中学校  
指導者 廣瀬 理恵

1. 日 時 平成17年10月28日（金） 第2校時（10：00～10：50）
2. 学 年 第2学年5組（男子18名，女子18名，計36名）
3. 場 所 被服室
4. 題 材 わたしたちの成長と家族  
－幼児と遊ぼう－

### 5. 題材について

#### （1）題材観

幼児期は，人間形成の基礎をつくる大切な時期で，家族や周囲の人びととのかかわりが大きな影響を与える。中学生の時期は，家族との関係に悩んだり，他人との違いを個性と認められなかったりする場合もある。幼児期の成長を学習することは，自分の成長を振り返り，自分と家族のかかわりについて見つめ直すことにつながる。この学習をとおして，自分の存在感や自分らしさを感じると同時に，自分たち一人ひとりが個性的な存在であることに気づかせたい。また，幼児の成長や生活が家族や周囲の人びとに支えられてきたことに気づかせ，他者との共生やよりよい家族関係について考えさせたい。

#### （2）生徒観

現在，少子化や核家族化がすすみ，中学生が幼児と接する機会は少なく，身近に幼児の成長発達を見るのが難しくなっていると思われる。そこでアンケートをとると，乳幼児の兄弟がいる生徒は，全体の11％で，乳幼児と一緒に遊びたいと答えた者は46％だった。また，幼児に対するイメージは，「かわいい」「元気がいい」と肯定的に答えた者が半数以上いたが，「よく泣く」「世話が大変」というかかわりに対するイメージはあまりよくないと思われる。そこで，今年度夏休みに保育所で職場体験を行った生徒（本学級は7人）に，「幼児とのかかわりは大変だが，やりがいがあった」などの感想を発表させ，幼児とのかかわりに対する興味をもたせたい。

また，この学習を通して，自分の成長を振り返り，自己肯定感をもたせたい。

#### （3）指導観

幼児の成長を具体的にイメージしやすいように，視聴覚教材を利用したり，絵本やマンガの幼児を例に挙げたりしながら，自分の成長を振り返らせたい。

しかし，幼児期の思い出を肯定的に振り返ることができる生徒ばかりではないことにも，十分配慮しながら，子どもの育つ環境としての家族の役割について考えさせたい。また，幼児虐待など幼児の発達を支えるはずの家族が，家族関係をうまくつくりことができず悩んでいることにもふれ，地域の支えが必要であることに気づかせ，社会の一員としてのかかわりについても考えさせる。

### 6. 題材の目標

- ・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えさせる。
- ・幼児の遊び道具の製作を通して，幼児の遊びの意義について考えさせる。
- ・幼児の心身の発達の特徴を知り，子どもの育つ環境としての家族の役割について考えさせる。

7. 題材の評価規準

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造する 能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて、関心をもって取り組んでいる。</li> <li>幼児に関心をもち、幼児の遊びや幼児の発達と家族のかかわりについて考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて課題をみつけ、その解決を目指して工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて考え、幼児の発達に応じた遊び道具を製作できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて理解している。</li> <li>幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関する基礎的な知識を理解している。</li> </ul>

8. 題材指導計画（全16時間）

学習主題	時	評価				
		ねらい・学習内容及び活動	関	工	技 知	
1 幼児期をふり返ってみよう	1	<p>自分の幼児期を思い出し、多くの人とのかかわりの中で成長してきたことに気がつく</p> <p>・自分の幼児期をふり返り、生まれてから今までにかかわった人を思い出し、「幼い頃のエピソード」を作成する。</p>				<p>評価規準（評価方法）</p> <p>「十分満足できる」と判断される生徒への指導の手だて</p> <p>「努力を要する」と判断される生徒への指導の手だて</p> <p>・自分の「幼い頃のエピソード」を作成することにより、多くの人とのかかわりの中で成長してきたことに気づく。（活動観察・学習ノート）</p> <p>他の人のエピソードを参考に、家族以外の人とのかかわりも考えさせる。</p> <p>他の人のエピソードを参考に、保育所などでの思い出を書かせる。</p>
	2	<p>自分の成長が家族や周囲の人に支えられていたことについて、考えることができる</p> <p>・「世界がもし100人の村だったら」を例に出し、自分の成長が家族や周囲の人に支えられていたことを考える。</p>				<p>・自分の成長が家族や周囲の人に支えられていたことに気がつく。（活動観察・学習ノート）</p> <p>自分の存在も、幼児に影響を与えていることを考えさせる。</p> <p>家族の支えをどんな時に感じるかを考えさせる。</p>

2 ど の よ う に 成 長 し て き た の だ ら う	3	<p>幼児の体の特徴について考える</p> <p>・わたしたちと幼児の体は、どのようにちがうか考える。</p>			<p>・幼児期の体の特徴を考えることにより、幼児の体の特徴について関心を深める。(活動観察・学習ノート)</p> <p>幼児の衣服にどのような工夫があるかを考えさせる。</p> <p>ドラえもんの体型の特徴から考えさせる。</p>
	4	<p>幼児期の運動機能や生理的機能の発達がわかる</p> <p>・幼児期の運動機能、生理的機能の特徴をまとめることができる。</p>			<p>・幼児期の運動機能、生理的機能について理解でき、発達に個人差があることを知る。(学習ノート)</p> <p>発達に個人差があるのはなぜかを考えさせる。</p> <p>発達の道すじを基に、手の運動機能の発達から考えさせる。</p>
	5	<p>幼児期の心の発達がわかる</p> <p>・幼児期の心の発達が、自立・自律につながることを理解する。</p> <p>・情緒の発達をうながすためのかわり方に関心をもつ。</p>			<p>・幼児の心の発達が自立・自律へとつながっていることを理解できる。(学習ノート)</p> <p>自立と自律の違いを考えさせる。</p> <p>幼児は、どんな時に泣くのかを考えさせる。</p> <p>・自分も含めた周りの人の接し方が、情緒の発達に影響を与えていることに関心をもつ。(活動観察・学習ノート)</p> <p>豊かな感情が育てるには、どんな接し方をすればよいかを考えさせる。</p> <p>自分には、どんな感情があるかを考えさせる。</p>
	6	<p>幼児期の社会性の発達がわかる</p> <p>・社会性の発達の特徴を考える。</p> <p>・おもちゃの取り合いをしている幼児に対して、どんな声かけをするか考える。</p>			<p>・幼児の社会性の発達の特徴について理解する。(学習ノート)</p> <p>幼児の行動と心の発達を関連づけて考えさせる。</p> <p>自分と周囲の人びとのかかわりをあげさせる。</p> <p>・社会性を身につけるための、幼児に対する声かけを考えることができる。(学習ノート・発表)</p> <p>幼児の反抗期の特徴を考えた声かけを考えさせる。</p> <p>どんな声かけがいやかを考えさせる。</p>
	7	<p>幼児のことばの発達の特徴に関心を持ち、発達に影響を与えているものを考える</p> <p>・幼児が初めて話すことばを考える。</p> <p>・ことばを発達させるため</p>			<p>・幼児が初めて話すことばを考えることができる。(学習ノート・発表)</p> <p>幼児が関心を持っていることは何かを考えさせる。</p> <p>場面設定をし、その時に幼児が発することばを考えさせる。</p> <p>・ことばの発達に影響を与えているものを考え、接し方を工夫できる。(学習ノート・発表)</p>

		には、どんな接し方をすればよいか工夫する。			ことばを発達させるためには、周りがどんな接し方をすればよいかを場面に合わせて考えさせる。 p 1 4 2 の 7 図を見て、中学生が幼児にどう接しているかを考えさせる。
	8	生活習慣の形成が自立への基礎になることを知る  ・生活習慣を身につけることが、自立への基礎になることを理解する。			・幼児は2つの生活習慣を身につけることが大切で、それが自立への基礎になることを理解できる。(学習ノート・発表) 幼児が興味をもってやろうとする気持ちがおきるかかわりかたを考えさせる。 はみがきの習慣を身につけるさせるために、自分はどんなかわりをするかを考えさせる。
3 幼 児 と 遊 ぼう	9	幼児にとって遊びの大切さを理解する  ・幼児とのふれあい方で、まがっていることは何かを考える。 ・遊びで育つ能力について、まとめる。			・幼児とのかかわりに関心をもち、意欲的に考えようとしている。(学習ノート・発表) どんな接し方をすると、幼児がのびのびと遊べるかを考えさせる。 p 1 4 4 の続きの会話を考えさせる。 ・遊びで育つ能力と意義を理解できる。(学習ノート) さまざまな遊びで育つ能力について考えさせる。 ボール遊びで育つ能力を考えさせる。
	10 ( 本 時 )	幼児にふさわしいおもちゃを考える  ・おもちゃは、幼児の遊びにどんな影響を与えるかを考える。また、幼児には、どんなおもちゃがふさわしいかを考える。			・幼児にふさわしいおもちゃの条件について理解できる。(ワークシート・発表) いろいろなおもちゃの比較から、幼児の発達段階にふさわしいおもちゃの条件を考えさせる。 安全面でおもちゃにどんな配慮が必要かを考えさせる。
	11	幼児の遊びを豊かにする環境を考える  ・おもちゃ以外の遊びが幼児に与える影響について考える。 ・幼児が遊ぶときに、周りの大人が気を配ることを考える。			・遊びを豊かにする環境について、意欲的に考えようとしている。(活動観察・学習ノート) TVゲームの弊害について、考えさせる。 自分が好きだったおもちゃ以外の遊びについて、思い出させる。 ・安全な遊び場や一緒に遊ぶ大人の存在が、遊びを豊かにするには必要であることに気づく。(学習ノート・発表) 幼児だけで遊ぶ場合と、大人と遊ぶ場合の違いについて考えさせる。 p 1 4 7 の写真の場面での、危険について考えさせる。

4 遊 び 道 具 を つ く っ て み よ う	12	<p>幼児に喜ばれるおもちゃの製作の計画を立てる</p> <p>・おもちゃを製作するとき、気をつけることを考えることができる。</p>			<p>・幼児に喜ばれるおもちゃの製作計画を考えることができる。(学習ノート・発表)</p> <p>丈夫なおもちゃにするためにどんな工夫をすればよいか考えさせる。</p> <p>幼児の時に作ったことのあるおもちゃを思い出させる。</p>
	13 14	<p>幼児の発達段階にあったおもちゃを製作できる</p> <p>・発達段階にあったおもちゃを製作することができる。</p>			<p>・幼児の発達段階にあったおもちゃを工夫して製作できる。(活動観察・作品)</p> <p>おもちゃで育つ能力について考えて製作させる。</p> <p>じょうぶなおもちゃができるように工夫させる。</p>
5 幼 児 に と っ て の 家 族 を 考 え よ う	15	<p>幼児とかかわる家族の役割を考えられる</p> <p>・幼児の家族の気持ちを考えて、どんなことばをかけるかを考える。</p> <p>・幼児とかかわる家族の役割について考えることができる。</p>			<p>・家族の気持ちになって、幼児にかけることばを考えることができる。(学習ノート・発表)</p> <p>幼児の発達をうながすかわりについて、考えさせる。</p> <p>幼児がかけられることばで、いやなことばは何かを考えさせる。</p> <p>・幼児の成長には、家族とのかかわりが大切であることが理解できる。(学習ノート・発表)</p> <p>p 153のグラフを見て、父親とのふれあいの時間が少ないことをどう思うか、考えさせる。</p> <p>資料を見て、家族のよくないかわり方について、考えさせる。</p>
6 幼 児 の 過 ご す 場 を 考 え よ う	16	<p>幼児の生活環境の改善点をあげることができる</p> <p>・幼児が、事故にあわないようにするには、どんな配慮が必要かを考える。</p> <p>・幼児を育てるための社会の援助について知る。</p>			<p>・自分たちの地域の遊び場の安全について考え、改善点をあげることができる。(学習ノート・発表)</p> <p>幼児の遊びを引き出す遊び場の条件を考えさせる。</p> <p>予想されるけがについて、考えさせる。</p> <p>・幼児を育てるためのいろいろな社会施設について知る。(学習ノート)</p> <p>地域の一員として、中学生が幼児にかかわることができるのはどんなことかを考えさせる。</p> <p>どんな社会だと、幼児がのびのびと育つことができるかを考えさせる。</p>

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

・遊びにおけるおもちゃの果たす役割と幼児にふさわしいおもちゃの条件について理解する。

(2) 学習指導における仮説

・幼児にふさわしいおもちゃの条件について，班で話し合い意見を交流することで，生徒が課題を解決し，基礎的な知識を理解するとともに，おもちゃづくりに対する関心が深まるであろう。

(3) 評価規準

生活や技術についての知識・理解

幼児にふさわしいおもちゃの条件について理解できる。

(4) 準備物

幼児期に遊んだおもちゃ

10. 学習の展開 (10 / 16 時間)

「十分満足できる」と判断される生徒への指導の手だて

「努力を要する」と判断される生徒への指導の手だて

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
課題づくり	<p>1. 自分が幼児期に遊んだおもちゃを思いだし，そのおもちゃは，だれがどんな思いをこめて与えたかを考える。</p> <p>2. 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>前時に学習した遊びで育つ能力にむすびつけて考えさせる。</p> <p>指導者の思い出を聞き，おもちゃを選ぶ側の思いに気づかせる。</p> <p>・本時の学習課題の提示をする。</p>	
	<p>幼児にふさわしいおもちゃを考えよう。</p>		
計画の立案	<p>3. 自分たちの班で選んだおもちゃと他の班が選んだおもちゃを比べて，幼児にふさわしいおもちゃの条件を考える。</p>	<p>・他の班のおもちゃと比較することで，幼児にふさわしいおもちゃの条件を様々な観点から考えさせる。</p>	
	<p>4. 班で選んだおもちゃを，使ってどんな遊びができ，どんな能力を育てることができるかを班で考える。</p>	<p>おもちゃによって，いろいろな遊びが工夫できるものがあることに気づかせる。</p> <p>班員の意見を聞き，自分だったらどんなふう遊ぶかを考えさせる。</p>	

実践	<p>5．自分の班のおもちゃのよさをアピールする。</p> <p>6．他の班のおもちゃと比較して、自分の班のおもちゃの欠点を見つけ、発表する。</p> <p>7．幼児に与えるおもちゃの条件を発表する。</p> <p>8．学習を振り返り、おもちゃの条件をまとめる。</p>	<p>他の班の発表から、自分たちの気づかなかったよさを見つけさせる。</p> <p>同じ種類のおもちゃを比較して、よさを見つけさせる。</p> <p>様々な視点から、おもちゃの欠点を考えさせる。</p> <p>おもちゃが原因で起こる事故やけがについて考えさせる。</p> <p>いろいろなおもちゃの比較から、幼児の発達段階にふさわしいおもちゃの条件を考えさせる。</p> <p>安全面で、おもちゃにどんな配慮が必要かを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児にふさわしいおもちゃの条件を理解させる。</li> <li>・安全でじょうぶなもの</li> <li>・発達段階にあったもの</li> <li>・遊びがくふうできるもの</li> <li>・色や形が美しいもの</li> <li>・十分使いこなせる種類や数</li> </ul>	<p>幼児にふさわしいおもちゃの条件を理解する。〔知識・理解〕</p> <p style="text-align: center;">〔 ワークシート 活動観察 発表 〕</p> <p>判断基準</p> <p>A おもちゃの条件を、幼児の発達段階とむすびつけて理解できる。</p> <p>B 幼児にふさわしいおもちゃの条件を理解できる。</p> <p>C 幼児の安全を考えたおもちゃの条件が理解できる。</p>
評価	<p>9．自己評価をし、次時の学習の課題を知る。</p>	<p>・おもちゃ以外に遊びを引き出すものを考えさせておく。</p>	